



岸 高明の市議会だより

事務所 茅ヶ崎市新栄町7-1 岸ビル6F
自宅 茅ヶ崎市本村4-10-8

Tel 0467-89-3807
Fax 0467-89-3806

http://www.takaaki-kishi.com/ mail: takaaki_kishi@hotmail.com

昨年は、皆様の応援により再度当選させて頂きました。今年も、議会においては、新会派“茅ヶ崎クラブ”の会長として、都市建設常任委員長として、新たな世界を力強く切り開いてまいります。

これかも皆様の声をランドマークに、“きらめくまち茅ヶ崎”を創造してまいります。

12月議会から(第4回定例会) 3月議会は、2月20日から



一般質問から 一部要点のみ

- 忙しい人の為に、電車を待つ時間などに携帯電話で読める様に広報概要をメールで送信出来ないかと議論。市長は、防犯等のメールサービスに、精査し追加して行きたいとの事。
- 他市での実証実験データを示し、ゴミ出し日をメールで知らせるシステムが高い評価を得ている。特に学生等には便利で導入すべきと議論。市長は、実施可能で問題点を整理検討するとの事。
- ひばりが丘と若松町の投票所は仮設。施設の地域偏り解消をと議論。市長は、地域集会施設を自治会連合会の12地区に整備をした。地域によっては適正な場所に配置されていないと認識。新たな公共施設整備の際に、検証対応する方向との事。
- 公共と民間で競合する事業の市の姿勢を議論。市長は、民間とのあらゆる可能性を検討と述べる。
- 市には、企業利益という指標が無い。施政方針やマニフェストの達成度で代替し、市長と幹部の人事評価にできないかと議論。市長は時代の推移の中で、検証しなければならないと予測。

☆一般質問でも、取り上げたゴミ回収方法が三者協調型(市・市民・業者)に変更。資源ごみ回収団体への資源回収補助金(約1300万円)を平成19年で打ち切り



鳥井戸橋地下道に貯留池

国道1号から浜見平団地に向かうJRの地下道はたびたび冠水し交通遮断しています。今回、対策として、JR南側に用地買収を行い1000立方メートルの貯留池を作る事になりました。豪雨時は周辺の雨水を貯留池に溜め込み、豪雨が治まった後にポンプで排水します。本市の下水整備は時間降雨50mm対応ですが、これは平成19年7月29日の豪雨に対応できる時間降雨80mm対応となっています。<概算総事業費約6億円、平成24年度には供用開始予定>

★南湖公民館における絵画紛失で、画家と130万円が和解。公民館には、市民の多くの作品が展示されます。管理責任と共に、紛失等について会館利用者への衆知も必要と考えます。

新たに自治会を窓口とし資源ごみ回収量に応じ協力金(1Kg 当り2.5円・見込総額4200万円)を地域コミュニティ育成のために支払います。現在、資源以外の回収ごみの中に資源ごみが約6200トン含まれるのを、半分に減らす効果を狙うとの事。自治会毎の計量の正確性、地域コミュニティの育成が図れるかなどは今後の評価に。



新設校・仮称緑が浜第二小学校

開校6年目ですすでに、児童数が満杯で特別教室をつぶしている緑が浜小学校。汐見台の淡水化プラント跡地の国有地に仮称・緑が浜第二小学校を建設する事になりました。平成23年度開校、概算事業総額44億円を見込んでいます。藤沢市と海岸の角地で4車線道路に囲まれた場所で、最適地とはいえませんが、現状の子供の教育を優先すると他には選択肢が無く賛成いたしました。相模川河畔スポーツ公園移設が検討された国有地です。国の売却の話から、短期間での学校建設決定で、もう少し丁寧な検討が必要と感じています。他にも梅田小・茅ヶ崎小なども過大校対策が必要です。本村地下道と出た所の信号機の箇所には、東側が浜須賀小・南側が東海岸小・西側が茅ヶ崎小・北側が梅田小と過大校の学区の接合点です。人口増加地域は地価が高く学校が作れないので、その外側に学校を作ります。結果として、人口増加地域と学校建設位置が一致しなくなります。香川小は仮設校舎増設で対応。梅田小は本村地域を円蔵小に編成される案が検討されています。学校は教育の場です。子供を中心に据え、大人は何をすべきか、という視点だけは見失わないようにしたいものです。逆に生徒数が減少する地域もあり、地域による偏在化が進行しています。まちづくり・都市マスタープランからの視点も重要と考えます。



温水プール建て替え

菖園にある温水プールが建替えられる事になりました。焼却所の余剰熱を利用し、市民の健康増進に役立って来ました。しかしながら、昭和56年の建設で耐震性能が低く、バリアフリー化が難しく、現在の場所での建て替えとなりました。平成22年始めに利用開始予定です。総事業費6億円余の計画。建替えの時期にこそ、PDCA(計画→実施→チェック→見直し)の絶好のチェック時期です。市民の声は大事ですが、同時に市(専門家)として深く分析評価し建替えに活かすべきと考えます。例えば、利用者数が多いからといって、市民が求める施設とは限りません。民間との競合、公共とは何かを問う必要があります。施設評価を行い。利用料金には、初期投資も含むコストを計算し利用者に公表すべきと考えます。



庁舎建替え・公共施設再編

11月4日にパブリックコメントが締め切れ、既に改正された計画案が公表されています。行政は急ピッチで話しを進めています。既に、温水プール建設、河畔スポーツ公園移転先と事業計画、仮称緑が浜第2小建設が決定され、文化会館は改修案に変更されました。議会の特別委員会は、現在、中間報告の取りまとめに入っています。償還が進むので年40億円程度の公債費発効には耐えられる見込みなどとしていますが、他事業とのバランス、まちづくりなど、もっと突っ込んだ議論が必要と感じています。



相模川河畔スポーツ公園の移転先は、柳島向河原地区

中島にある相模川河畔スポーツ公園の移設先予定先が、産業道路を挟んだ反対側の柳島向河原地区に決定されました。11.6ha 中の 5.6ha を区域して整備し、概算約 57 億円、3種公認陸上競技場、平成26年利用開始の計画です。湘南バイパスを平塚方向へ延伸するために橋脚幅を広げると、ゴルフ場の一部コースが使えなくなるので、その代替地に、スポーツ公園をあてる。国と市との契約期限も切れている。相模川の堤の補強も必要。当初、仮称・緑が浜第二小学校建設予定地が移転先でしたが面積などで、仮称・小出第二小学校も自然環境保護などにより選択されず、今回の場所に決定されました。仮称・小出第二小学校の今後の計画は未定です。新湘南パイパスの延伸が、どうなるか気になる所です。